

雌牛貸与ボランティア

カンボジアの農村では米が主な作物です。カンボジアの一般的な農業を営んでいる村の中で農耕地を持たず、人から田畑を借りて耕している人たちの生活を少しでもよくするためにこのボランティアは行われております。

田畑を持たない農民は、田畑を耕すための牛さえも借りています。収穫できた米や果物をその、費用に当てると手元にはほとんど残りません。

家族が食べてゆくことが精一杯で、働き手となる子供は学校へは行かず、家の手伝いをします。自分達の土地や牛を持つため、子供を学校へ通わせるための資金すら蓄えることができません。

そこで管理能力のある村長に雌牛を預け、村長と契約を交わした村人が、牛の世話をします。

その牛が子供を産んだらその子牛は育てた村人がもらうことができます。もし生まれた子牛が雄の場合はそこで繁殖が止まってしまうので、3年の間に雌の子牛が生まれるまで、村びとに権利はあります。

親牛は村の財産として次の村びとに世話が引き継がれ、そこで子牛が生まれたら、その子牛をもらうことができます。子牛をもらった村人は親牛を村に戻し、そしてまた次の村びとへと引き継がれてゆきます。

(ほぼ生後1才の雌牛) ※写真はイメージ



村人との会議



牛



世話役さんへ

1. 村の選定
2. 村会議を開き、牛の世話役を決める
3. 牛の貸与（世話役は責任を持って繁殖に勤める）
子牛が生まれたら3頭のうち2頭は世話役がもらえる（必ず1頭は雌牛になるよう調整）、1頭は村の財産として管理。

村の人口は増加傾向にあるため、ひとつの村だけではなく、目標100頭の支援を目指して活動を継続的なものにすることが重要です。

1頭の牛は約10年間に7～8頭の子供を生みます。

相互に協力し合い、村自体の活性化にも繋がっていくよい方法と思います。